

TAC「実務補習の世界」資料

中小企業診断士講座専任講師 高久 広

(1) 実務補習とは

①実務補習の位置付け

- ・ 2次試験に合格後、3年以内に実務補習を15日以上受けるか、診断実務に15日以上従事することにより、中小企業診断士の登録ができる。実務補習は最も効果的な手段の一つ！

②特徴

- ・ 実務補習は企業の「経営全般」をチームで診断することができる
- ・ 幅広く効果的な診断経験を積むために、15日で3社という仕組みとなっている
- ・ 診断は自主性を尊重するものの、適切な指導員のもと適切な診断実務を行うことができる
- ・ 補習という位置付けではあるが、企業の役に立ちたいという意識で本格的に取り組むことができる

③実務補習5日間の概要

- ・ 無理のない日程を選択して先ず申し込むこと（5日間コースと15日間コース）
- ・ 1週間前に指導員からメールなどで連絡。メールに注意！
- ・ 初日 オリエンテーション（例年東京地区は日本教育会館） → 班ごと打合せ
 企業へ訪問（ヒアリング）、役割分担および今後の進め方、方向性について協議
- ・ 2日目 終日ミーティング。方向性の取決めなど（必要に応じて調査分析、再ヒアリング）
- ・ 3日目 自主学習期間（中7日間）。勝負どころ！
 方向性の摺り合わせ、各役割担当の内容の相互チェック、全体調整
- ・ 4日目 調査票および報告書の最終チェック、印刷製本
- ・ 5日目 報告会の練習を経て企業へ訪問（報告会）、診断協会へ報告書等提出

(2) 実務補習の心構え

①注意事項

- ・ 実務補習テキストや受講心得などに目を通し、充実した実務補習となるように準備する
- ・ 中小企業診断士倫理規定（直接接触 NG、服装や態度、個人の情報など）
- ・ 守秘義務の徹底（ブログ記載 NG）
- ・ グループ行動、チームワーク、協力・協調
- ・ すべて決められた必要項目、様式、書式のとおりに報告書を作成する
- ・ 診断先企業の成長発展を最終目的とする
- ・ 勉強させてもらうという謙虚な姿勢と企業の役に立ちたいという強い志（ただし無理はしない）

②実践編

- ・ 業界動向や外部環境、対象企業に関する情報を1週間で徹底的に調べ尽くす
- ・ 自分の役割分の完成だけを考えない。診断ニーズと課題をきっちりとらえて企業の成長を優先する
- ・ 知識ではなく知恵を使い、実現可能な提案をする。
- ・ 真摯に楽しく！

以上